

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和5年7月10日

三田市議会議長 松岡 信生 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	厚地弘行
		議員名	伊田哲
派遣者氏名	厚地弘行・北本節代・佐貫尚子・中田哲		
視察先及び調査事項(調査目的)	岡山県浅口市 市直営無料バス『ふれあいバス』事業について		
日 時	令和5年7月6日(木) 14時00分～16時00分		
視察先対応者	井澤誠議長、石田康雄企画財政部長、富田正樹課長 仁科道也地域創造主幹		
【調査結果概要】			
■事業の背景 市内の井笠鉄道(株)が経営破綻し、平成24年にバス路線が廃止されたことによる。平成22年から既に市民アンケートを行い、公共交通の課題整理をはじめている。23年2月市営バス無償の試行運行を行うために業者選定し、4月から開始する。			
■事業の内容 アンケート結果に基づき高齢者の買い物と病院への交通手段の確保として、交通空白地域を最小限にし、地域をきめ細かく回る市営バス6路線を実施することとなった。 している。バスはハイエース12人乗りを6台市が購入。保険、ガソリン代等は市が負担し、運転などの運行を2社に業務委託する。乗降者がいない停留所は通貨するワンマンバス方式。 現在は週3回の運行であるが、当初は各路線を週2回で始めている。一日あたり4便から7便。バス停を表示する工作物はなく、床にペインティングしている。 乗車の多い路線にはその区間のみ2台の連車で運行。 年間運行経費は2,054万円(うち業務委託費1,050万円) 年間のべ利用者数30,990人、一便あたりの乗車数6.1人、乗車率39.7% コロナ禍中は利用者が減っていたが、今年くらいから盛り返している。 運行の法的位置づけは、道路運送法によるものとせず白ナンバーでの運行である。			
■質問に対して 道路運送法の有償運送にすれば様々な規制があり複雑になる。一方、			

道路運送法外であっても法律に触らないように調査の必要はあるし、法律の改正には気を使っていかなければならないと説明があった。

■今後の課題

バス停留場所のペインティングに色落ちが早いこと、便数を増やしてほしい、運行の曜日が限られる、家の前にもバス停留してほしいなどの市民ニーズがある。高齢者の増加に伴う福祉施策としての対応も検討が必要と考えている。また技術の発展による無人バスの開発も進んでおり、その進捗も見ていきたいと説明があった。また、主に高齢者が乗車するため、他の世代の人からは利用者が無料で行うのは問題があるのではないかとの意見もあるが、若い世代もいずれ高齢になると言うことの説明で今は納得していただいている。

【所見】

中心市街地からすべての市境まで車で15分と比較的コンパクトな市域であることから、バス事業を展開するにはやや有利な立地といえる。バス路線や停留所を細かく設定している割には、利用者が伸びていないのが課題であるが、利用者のリピート率は高く、少数ではあるが、必要度の高いかたにとっては無くてはならない事業となっていることが伺える。ニーズの調査によっては、デマンド型のサービス形態にしたほうが、運営側と利用者側双方にとって最適になることも考えられるので事業構築の際は市場調査を慎重に進めることが必要だと感じた。真に困っている人をいかに救うかという点と、市民側への『乗って支える意識』の醸成と事業への理解促進。そしてなにより、民間事業者との役割のすみわけ（民業の領域を犯してはならない。）が重要であると考えている。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

令和5年7月10日

三田市議会議長 松岡 信生 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	厚地弘行
		議員名	中田 哲
派遣者氏名	厚地弘行・北本節代・佐貫尚子・中田哲		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	広島県福山市 イエナプラン教育について		
日 時	令和5年7月7日(金) 10時10分～11時40分		
視察先対応者	常石ともに学園校長 甲斐和子 常石ともに学園教頭 坂口憲治		
<p>【調査結果概要】</p> <p>■基本理念 21世紀型『スキル&倫理観』を教育活動の中ではぐくみ、『行動化』ができる確かな学びを進める。</p> <p>■福山 100年教育が描く未来 →変化の激しい社会の中で、夢とローズマインド(思いやりの心・優しさ・助け合いの心)を携え福山で、日本で、世界でたくましく生き抜く。そして、環境・貧困・人権・平和・開発等、社会の様々な課題を自らの課題ととらえ、課題解決に向け周りの人々と協働して持続可能な社会を創造する。</p> <p>■目指す子供の3つの姿 ①自立⇒学ぶ面白さを実感し自ら学ぶ子 ②共生⇒持ち味を活かしあい協働する子 ③自己実現⇒自己を認識し、自分らしく成長する子</p> <p>【スキル&倫理観】 責任感を持つ・進んで取り組む・計画する・協働する・生み出す・プレゼンする・リフレクションする。</p> <p>■学びの場での原則 ○教育活動は対話、遊び、学習、催しの4つの基本的な活動を交互にリズムカルに行う。 ○子供たちが互いに学びあい、助け合いができるように、年齢や発達状況の違う多様な子供たちを組み合わせたグループを創る。 ○一人でできる遊びや学習とグループリーダーが指示・指導する学習を交互に行なう。 ○学習の基本である、経験・発見・探求とワールドオリエンテーションが中心的な位置を占</p>			

める。

○子供の行動や成績の評価は成長の過程を見るという観点を大切にし、子供自身との話し合いをする形で進める。

○何かを変えたりより良いものにする活動が大切。実際に行動し、よく考え、繰り返すことを実践する。

○教室は居心地がよく先生と子供たちがサークル対話、共同作業ができる環境を整える。

■異年齢集団でのグループ編成

○1から3年生、4から6年生の3学年による異年齢集団を基本単位として教育活動を行う。

⇒年長者が年少者を助けたり、教えたりすることが日常的に行われる。

⇒個性や発達程度の違いが当たり前のように受け入れられるようになる。

⇒教科学習では学年を超えた学びの展開が可能となる。

4つの基本活動

① 対話⇒対話を重視し、個人を尊重し信頼関係を育てる。

② 遊び⇒『遊び』そのものが『学び』であり、考える力や協働する力を育てる。

様々なシーンで子供が選択して『遊び』の時間・環境を創る。

③ 仕事⇒(ブロックアワー)⇒子供たちが学習計画を立て学び続ける力を養う。子供の状況に合わせた学習を進める。自立学習やインストラクション、学年の内容を超えた共通の問いについて考えることなどを組み合わせる。

(ワールドオリエンテーション)⇒生きた本物の題材から問いを見出し探求し続ける力を養う。教科の内容と関連した目の前の生きた問と向き合い異年齢集団による協働探求を進める。

④ 催し⇒子供たちが喜びや失敗の悔しさを分かち合いあう。運動会や学習発表会などの行事だけでなく、その週の学びをプレゼンや演劇にして発表し、他の学年や保護者、地域の方々と共有する。

【所見】

『非認知能力』の重要性、主体的で対話的な深い学び、個別最適な学び等、最近の教育業界の傾向をしっかりと意識した、先進的でチャレンジングな取り組みであると感心した。詰め込み学習だけではなく、好奇心から生まれる真の学びへの意欲をいかに育てるかが教育の原点だと考えるが、まさにそこにフォーカスした教育理念が常石ともに学園にはある。

低年齢の子供たちは特に『遊び』からたくさんのことを学ぶ。子供たちの生きる力を育てるには『好きや憧れ』が必須であり、異年齢の多様な友との『遊び』からダイバーシティや協働の意義を通して好奇心を養い、そして自己を認知する。短学年での共同作業や対話ではどうしても、役割が固定化してしまう。異年齢で教えあうことで、短学年ではリーダーになる機会のない子供が年下の子供の世話をすることで人を支える側の経験を積む。異年齢で学ぶことの意義は深い。学習面においても利点が多い。興味に合わせて学年を超えた学習を進めたり、場合によっては下学年の子供に交じって戻り学習をすることも可能で、幅と奥行きを持った個別最適学習が可能となる。学習面での『むら』ができるリスクや、教員人材の指導技能の担保、カリキュラムの管理上の苦勞、保護者への理解促進等、課題もあるであろうが、三田市も学ぶべき点が多くあると感じる。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。